

●第75号(一九八二年九月)

特集・横浜と工業

大都市における工業市街地の現況と課題——小林重敏

横浜における産業の現況と課題——中村実

横浜における工場立地規制と住工混在——江成藤吉

横浜の中小工業の今日——碓井貢

金沢工業団地工場移転の経過とその課題——山田稔

大谷高久 高橋道夫 吉田正博 稲村守彦

横浜の工業と公害対策——鈴木祥

工業の新しい動き——片岡純一郎

①研究開発型機能の存立条件——内山康

②ベンチャー型中堅企業——渡辺巧教

これからの横浜を担う都市型成長工業

行政研究——大森敬

地域的データ管理のシステム化(上)——三浦良

コミュニティ道路試論——加藤勝彦

新書紹介／韓国人の心——

●第76号(一九八二年十二月)

特集・都市と水環境——森清和

水辺再生の論理——品田穰

河川環境回復の道——宮村忠

川と技術と住民——石橋友治

座談会・水環境と下水・河川行政——鈴木重之 中村芳之 武藤高 高井芳

横浜の河川環境を考える——吉村伸一

水辺と市民——田口俊夫

横浜と海——森誠一郎

①都心部の水際線——

②魚の生息環境と富栄養化問題——

——

——

——

——

——

——

行政研究

ビルタンク水にみる飲料水としての安全性——唐沢栄

都市環境の変化に対応する予算システムの展望——金子延康

地域的データ管理のシステム化(下)——大森敬

新書紹介／水紀行——松岡恒司

●第77号(一九八三年三月)

特集・職員の自主研究——

私のテーマと仕事——岩崎駿介

「考える研修」を目指して——河野勉

自主研究の体験から——魚谷憲治ほか

●応募グループ運営の難しさ——

●地区センター調査の五年間——北内陽子

●福祉現場での自主研究——田中文夫

行政現場における研究への期待——星野信也

行政研究——

区におけるまちづくりと地区カルテ——区における

まちづくりと地区カルテ研究グループ——

区役所における——川人政憲

地区カルテづくり——

ミニ開発の現状と対策——ミニ開発問題研究会

横浜都心部の課題と都心型住宅(序論)——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

●第78号(一九八三年六月)

特集・市政情報の整備と利用

市民による地域情報づくり——千賀義二

①まちづくりウォーキングの試み——村田和夫

②市民の手による環境マップづくり——清水征夫 松井正幸

区政と行政情報——

行政情報システム化の試み——小雀貴司 高橋良夫

①市民情報カードシステム——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

昭和58年(1983年)10月31日

編集・発行——横浜市企画財政局都市科学研究室

横浜市中区港町1-1

電話——045・671-2028・2029 郵便番号——231

印刷——内村印刷株式会社

横浜市中区末吉町1-12

## ●横浜市のデータ

人口——2,891,241人&lt;58.9.1&gt;

世帯数——986,011&lt;58.9.1&gt;

面積——429.88km<sup>2</sup><58.9.1>

昭和58年度当初予算額 &lt;一般会計&gt;——682,115,306千円

9月現計予算額 &lt;一般会計&gt;——682,700,396千円

同上一般財源——432,556,387千円

うち市税——363,015,234千円